

令和5年度 シャープシューティング候補地の誘引調査

1) 七五岳40林道

七五岳40林道は中間林道の支線にあたり、過年度に林道工事が行われており林道の状況は良好である。シカの生息密度は高く林道の状況や林道脇の見通しが良く、捕獲の実施には好条件がそろっているため候補地として選定した(図1)。

誘引地点として2カ所にカメラを2台設置して調査を実施した。

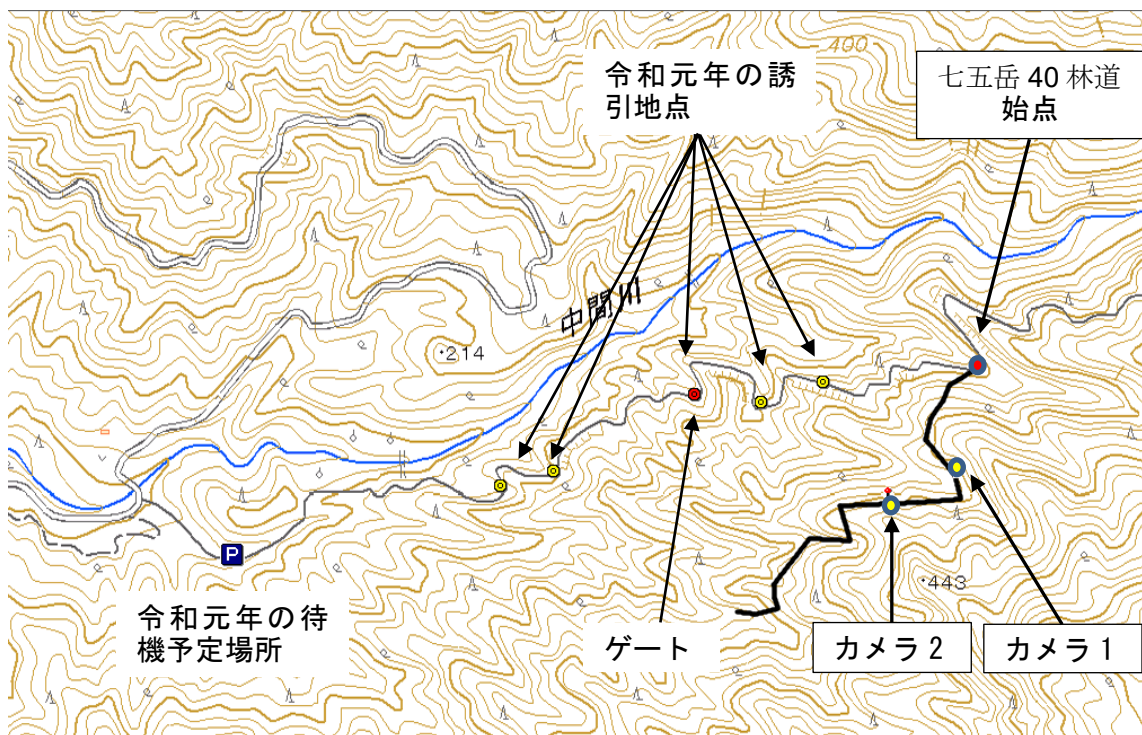


図1 自動撮影カメラ設置位置

(誘引状況)

七五岳40林道は1月19日から2月23日までカメラと餌(粉碎ヘイキューブ及びアルファペレット合計2kg)を設置し、途中1月30日に動作確認と餌の交換を行なった。

誘引開始3日程度でカメラ1、2の誘引地点で3頭程度、最大6頭のヤクシカが誘引された。また、1月30日の追加誘引では、誘引直後から誘引され、1月31日には最大6頭のヤクシカが誘引された。また、餌がなくなったと思われる2月2日以降も比較的日中に出没する傾向がみられた(図2、図3)。

七五岳40林道では誘引開始後1~3日程度で誘引することができ、誘引後も日中に出没する傾向が示された。また、誘引開始後よりも追加の誘引の方が、ヤクシカが誘引される期間が短いことも示された。

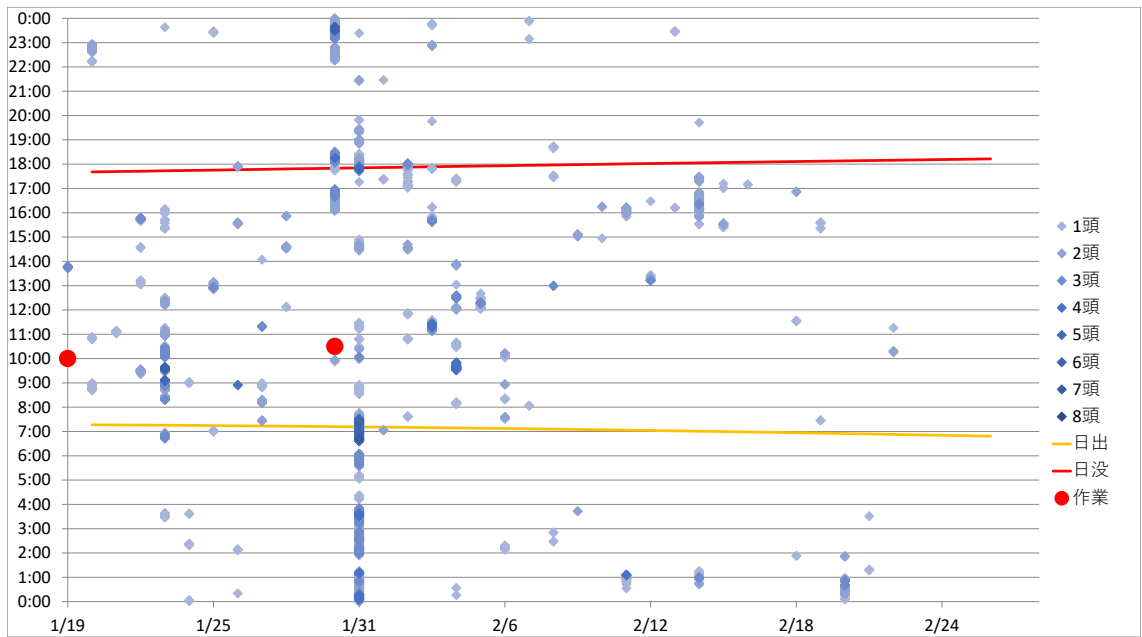


図 2 七五岳 40 林道誘引状況 カメラ 1

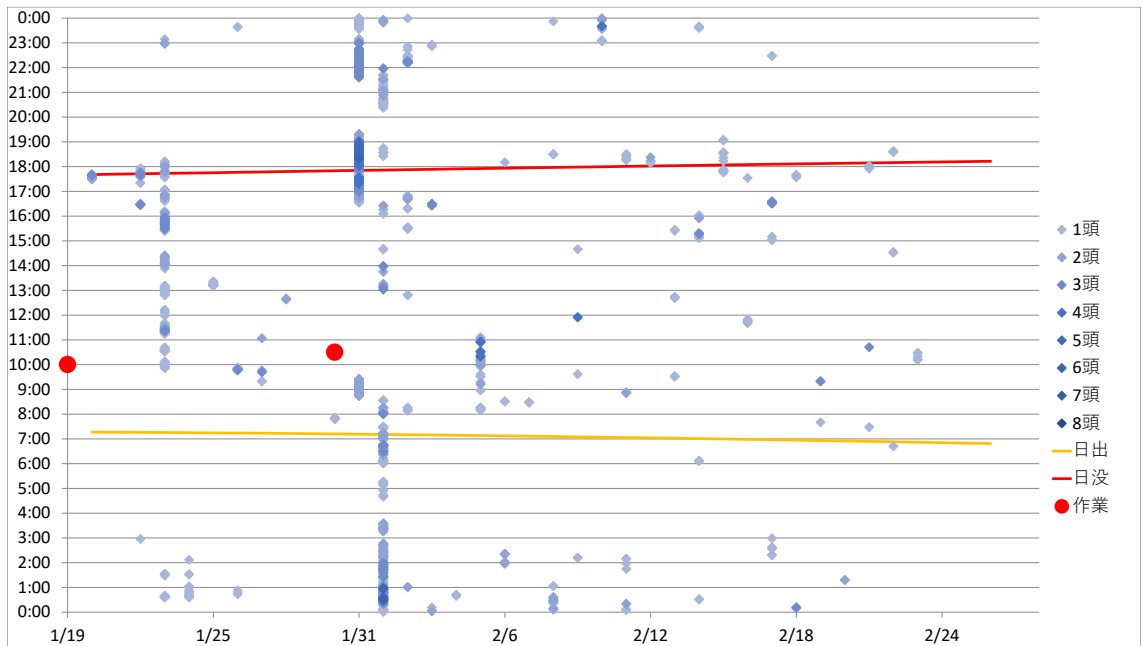


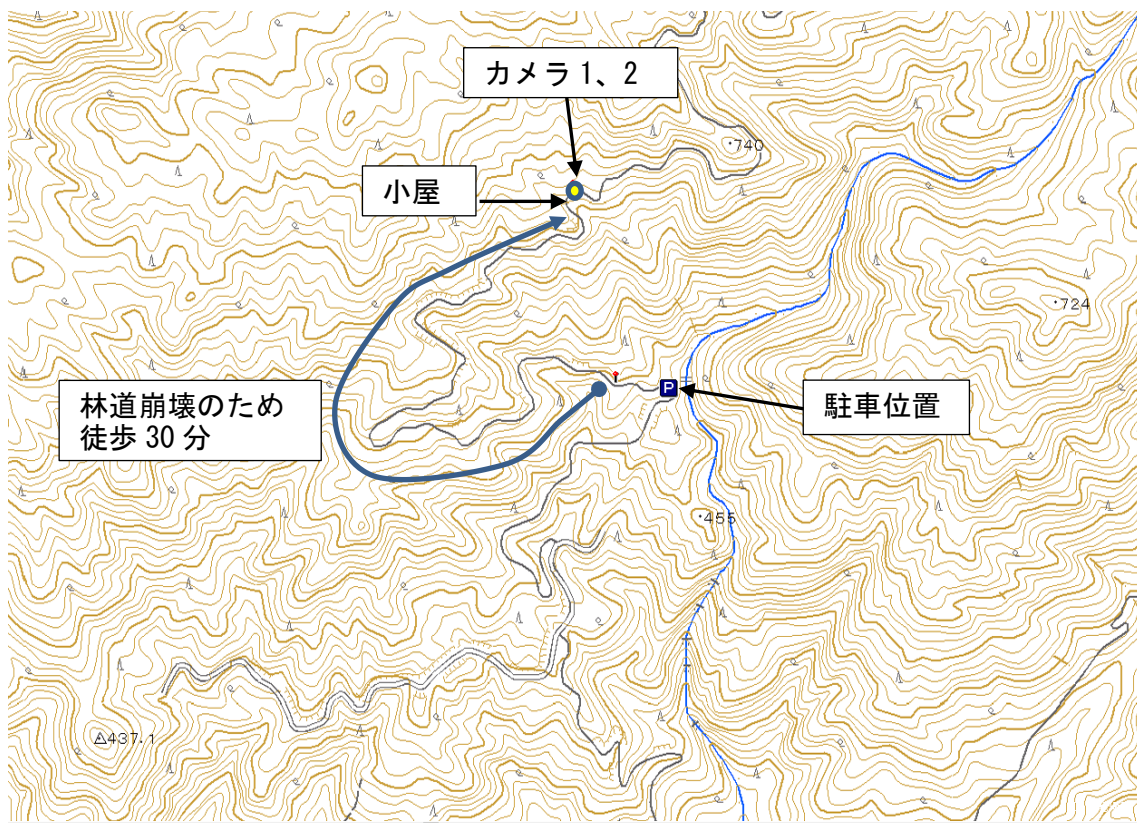
図 3 七五岳 40 林道誘引状況 カメラ 2

◆は自動撮影カメラにシカが写った時刻を示し、頭数を色分けした。●はカメラの設置・メンテナンス、餌の設置時刻を示す。

2) 湯泊林道

湯泊林道は入り口付近から林道が崩壊しており、施業や工事は行われていない。岳参りに行く登山者の踏み跡があり、歩いて進むことが可能であった。30分ほど歩いたところに使われていない小屋（森林管理署所有）があり、外からの観察では窓ガラスや壁の割れなどはなく、内部は清潔であると思われる。この小屋を利用し、待ち伏せて狙撃を行う捕獲体制を構築できないか検討するため選定した（図4）。

小屋から狙撃が可能な地点に餌を置き、2台のカメラで餌への誘引状況を記録した。



↑自動撮影カメラの設置位置

←小屋の状況写真

図4 自動撮影カメラ設置地点と林道途中の小屋

(実施結果)

湯泊林道は1月19日から2月26日までカメラと餌(粉碎ヘイキューブ及びアルファルファペレット合計2kg)を設置し、途中1月31日に動作確認と餌の交換を行なった。誘引結果は設置した2台のカメラをまとめて分析した。

誘引開始から1週間程度はほとんど誘引されていないが、1月28日から30日まで最大7頭程度のヤクシカが誘引された。

餌を追加した2度目の誘引では、餌を追加した1月31日から3日後の2月3日から3日間程度で誘引されるようになった。

湯泊林道では一度誘引されると3日間程度、最大7頭のヤクシカが誘引されることが示された。また、追加で餌を置いて誘引すると、ヤクシカが誘引されるまでの期間が短くなることが示された(図5)。

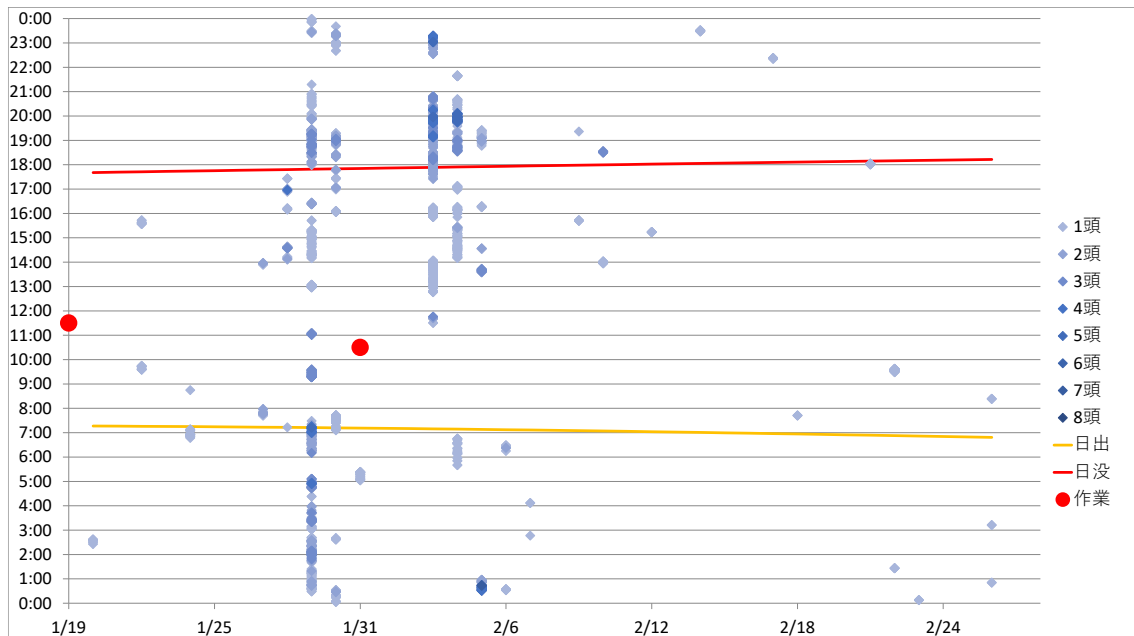


図5 湯泊林道誘引状況

◆は自動撮影カメラにシカが写った時刻を示し、頭数を色分けした。●はカメラの設置・メンテナンス、餌の設置時刻を示す。